

同好会友会計畫書

特別

14

1919

765



明法俱樂部組織の方針

中央明法俱樂部 改進黨主義を實行するの目的
 大に故、其俱樂部は他黨人より改進黨主義部員
 帝多數を占め、組織として、其力強固な問題を
 起す、毎時、改進黨主義の勝利を制し、俱樂部連
 動、帝の改進黨の利益に大に極は、他黨人へカ、
 其地方、目下存た、之は、改進黨部及び將來特効と
 認せし、久し、俱樂部建設、中央俱樂部及び中
 名望、人々、時、心同し、新、開、中、各、各、
 其事、物、例、の、概、密、院、に、於、て、議、し、憲、法、に、有、極、目
 的、及、之、に、對、し、改進黨の改進黨主義、其、手、段、
 改進黨の真面目、お、女、般、の、實、況、を、口、頭、に、相、信、其

方向ヲ設ケルニ手配人事

其二、明以俱生部ハ改進受員ノ政事案トシテ運動
スル際隠微之ヲ賛成輔成ニ方針ニ出シテハハハハ

其三、明以俱生部ハ明以俱生部トシテ政談ヲ相サズ決シテ

法律ニ觸ルニモ注意シ政談演説等ハ其俱生部

員中ノ政進受員限ルニ止メテ政談ニカサレハハハハ

其六、明以俱生部ハ其表面上學術的ノ地位清室カ

故ニ東京ニ於テハ大学理事部ノ教授地方ニ於テハ中

学校迄テ博士理事士其他有久大諸博士博士

等ニシテ政事ニ關係ナキ方子ヲモ加ハセシムル方針

ヲ取ル事

其六、日本ハ貧國ニ政進受員地方巡回演説受員

ニ政談演説ヲカシテ演説會場ヲ開クノ習慣ニシテハ入

費例トシテ別府永十回ノ維持ニテ散カレシ決シ

トヤ國會開設ノ後櫻井等ノ多數ヲ得ルカハ盛衰

ヲ隔ル等ノ事概出來リテ大車人ノ又々決シテ望

ム事ニシテ此ハ俱生部ハ其地方ニ單純ニ俱生部

員等令所ノ設クニシテモ寺院ニシテモ各地ノ

俱生部ニ定メテ其ノ新事ノ相成リシハ直ニ其會致シ

得ル概取極ニ其地方部員又ハ中央俱生部ノ政

治ニテ其二三名理事員等孰モ一家ニテハ成シ

見者ノ旅行巡回ノ際ハ其俱生部員他ノ俱生部

員相成リテ其時間ヲ費セシメ其概ノ方法ニシテ

身ハ極限に達し但兵部並其ノ子者博
士紳士等ト面接親交ノ方法ヲ設ル事是ハ
國會開設期ニ至リ權者將大勵力政事
家ノ衰亡ノ際ニ如キ輕便ノ方法ヲ用テ
ハ其ノ際ノ習慣ヲ依ルルハ其ノニモナリ

其七、昨年来府縣會議並權者言ハテ其ノ頗盛風
ハ已極覺エテ其ノ國會議負權者ノ際モ大抵其
榮習ニ適リ折衝ノ憲法制定アルモ其議負權者
者ノ意向即チ人民ノ意向ヲ代表セズ只其政治ニ關係
ナキモノナシテ投票ヲ表リ之ノ實ヲテ議負トナリ之モ
ノ力又根柢ナキ流傳ニ欺カシムルニモ便ナキ議負
ヲ出シ其ハ其種ノ人々國會多數ヲ占ムルニ至ラハ

決シテ人民ノ意志ヲ代表ス國會ト謂フ可ラ之其名アリ
リシ其實ナキノ結果ヲ見ルニ至ラシトモヤリシ其國會
ノ力又根柢ナキ流傳ニ至リテ其ノ力ハ其憲法制定ノ
權者ノ方法國會ノ性質ニ適法ノ解釈ヲ反覆
テ其ノ説明シ國會ノ設ルルカニテ其後防セリ力アリ
ス之ノ國會ニ以テ其ノ國法ニ鬼人高人其權者
者ノ多數ニ設ク外ナシ故明以兵部ノ設ク其以
上ノ名義アリシニ其ノ政事家外ニ存ラシ其國法ヲ
以テ其力カカテ其防衛機關トシテ其力カケル
ナリ

其九、明治兵部ハ唯軍事上改良ニシテ其目的セズ
人民幸福安寧ヲ謀ルル故ニ其社會上ノ利益

ノ確證を以て目的トシテハ、此ノ法律、行政、農工
商業等ニ對シテ、此進主義ノ利用シ、表面ニ觀スル
所度、此ノ均ラニ進シ、實利實益ヲ得セシムルニ
シテ、此一年ノ進シ、總ニ、國政改良、婦人ノ位置
宗內經濟、習慣、自衛、衛生等、モ、此注意シ
完美ノ制度ニ支配スルニ、完美ノ日本人民ヲ作り
出スル、此ノ方針ナリシ

三山子古古務

十一年九月日本社云々（此は明治二十一年九月）

第一、九月、日本社云々、大勢を案ずるに、近之兩三年間
に起リたる変動は、實に驚異ノものなり、今、其
一二の例を挙げて云へば、送來書生間の空位とて、實業
社會には幾人とも顔ぶたり上をざり、一、地方自治
の利便は、市町村制度に發布と共に、近々實行せり、
事となり、又、これより、此方、法律、前社云々の、其行は
り、受託、理端と、思ひ、此方、規則、登記の法も、金と、更
際、其採用、さし、さし、なり、之、此、人、智、未、だ、法律、と、政
治、と、其、大、勢、を、り、さし、さし、なり、さし、さし、なり、さし、さし、なり、
政治、と、其、大、勢、を、り、さし、さし、なり、さし、さし、なり、さし、さし、なり、
下、尚、不、兩、三、年、と、出、る、間、に、さし、さし、なり、さし、さし、なり、

憲法即ち建國此大法之成を公認し後福一或いは
美年此れゆく後員撰案此則一も、競争を以て其長を自撃
するに及りしや、大勢は変動又、或る可きものなる
ものありしや

第二 以此れをきざるある則ち法律は實際我が國一般
人民の智識も適合するや否や、是れは且つて拙き既又
實地を施りする場合は、勝むて六先も角も後事、又
に政治上の關係をせり、——と云ふも最早自然自
治此大勢を知らざる可らず、否、當に之れを知るもの
のみありしや、自り之れを行ふを自治此の成なり、是も
可らず、又其も法律、社会に關係をき、——と云ふも
自然登壇の法公認此規則を知る可らざる可らざる此

のみならず、又た親しく之れを利用せざる可らず、是れは
昨日まで、政治の事に、其も意見を注がざりし人の、この
漏れたる社會此大勢の爲めに、向られたる今日は自
治此得失を、其も爲後するものなり、今より一年、其も
——と云ふも、憲法の公布も、過げぬ、
何れ二國の大政に、無頓着なり、——と云ふも、又、恰も、市
所材制、其公布に、より、福も、自治此得失を、福するに
至りたる、其も、其も、又た、憲法の事を、口にするに、其も、
るを得ず、而して、今夜は、必らず、や、廣く、國政、其
付て、眼を、着るに、其も、——

第三 也斯く我國、其も、其も、大勢は、既に、其も、衆を、記して、
政治、其も、其も、其も、而して、憲法、制定、國會、其も、

後者の意、その如きを遂げられんことを誰のありたる
能く之れを辯ずるを得んや。元来英法五義の法律は
政治思想を有し、善利を政治に多少此關係を有す
る人民の富を算り、割りたるものなり。今や之の道
寫して我國に移用する以上其割りたる人民
の富を算り西人成りやく政治と此關係人たりざる
可らざるに及ぶは固し。當此此事と云ふべし。
茶田 加之今より二集相此後國會を及び制後する
に至れば政治部面此の世運動は今日より十数倍
の繁栄力と爲す。其爲る此の可らざるに至るは必
然なるにして彼の七年外交事件此殆どの繁栄は月を
隔てずして起るべきものと覚悟せざる可らざる事にして然り

とは其駱後の間に立つて全く其關係を断絶する
能はざるは七年の宣戦を徴して明らなり。況んや尚
不一層直接交渉ある問題と對しては此種之關係に
返るべきとするも得可らず。去れども早く將
事を前見して先う運動する者も稀なり。今や
るも侮るは向るに未し。さても侮らざるを考する
よはけは其の故を有るや必し。

第五 後者の意、斯る場合に及ぶるも苟くも中華
以上の資力と地位とを有する人々、一々尚不満足此方
針を定めてもめきあり。バカ者となり、勿論、之も此意
の大小に利害得失を懸けて、他党人士に餌食を著
す。又此人は動かし難く、他党人士に餌食を著す。是れを見

て或は嘲罵し彼輩何をその為し得ん者も彼輩は拳
勢に遇激ある彼輩は思ふに清國なるを其の中心
元来一國政治は近時一くは社会は變遷は必らず
しも道理は精力のみを信するものありざる尚ある
理生みのみ由るものありざるも清國を其の中心と
も之を其の中心とするは其の中心は通稱し得たり
るしとのなり現に政界各士に於ける革命は其の中心
あるするにまは譯けり別らぬ思想より原因する
を見ざるまれば必党人士を同一し後其の革命は
之を待し去るは可なり其の中心は同一し之を
之れに備ふるを之は遂に同一し其の中心を
此の中心とする

第六 情、我々方の有様を考ふるに從來政治の運動
は我々と必党人士と専有し一掃たるべき事多かり
即ち縣會におき彼輩の跋扈する有様の如き投票
言に於て彼輩の熱心自党員を捜索せしむる如き
如斯く現に其の外交駱士の如きも公平に評さば
寧ろ自由党派の運動と云ふことと其の如きべし又
た此年をより本年前に跨りて彼等が開きたる演説
と云はれり又之を自由党の計畫と云ふことと云ふ可なり
くまらぬ、從來を唯だ自由党人たり運動ありある
此の如きれば着意を以てし然るに屏居する我々を
其の如き家よりは其の如きと云ふことと云ふ可
らす一く運動を其の如きと云ふは自然彼輩は餌食

とあるは唐書あり現宗年比外交建白は和盟一たるよは
白眼以つて之を評せば幾今も自由党の爲に利用を
不便後さぬべしと云ふも亦りあるべし

不七 必竟するよはの考の才は千人の内忠者はある
九年九月に女附の考は僅かに一人に到るを以て
忠臣せしむるやれば彼等にも未だ單純なる忠臣を以て
輕佻浮薄は誘導する事ありは分るべきとの言は多し
その多かれは寧ろ綴あるに多りの此後論を
理解するに力ありあるも其の力なる中の人まで
け防を布つて彼等も同急を長とする
此等は豫なり、此の如く同團結の説の所を將
に勢力協を爲せんとするも亦その可なり彼等

の柔動輕佻ありとて一概に以て輕んぶ可らば況んや
近時彼等の運動を見るに輒々見戲を脱せるもの
如く例へば從來彼等の運動も兎角浮きよまた
る運動にて且機突たる新守我を突利する程の計
畫をもあさざりし漸くは長眠を覚ましたるもの
如く今や愈々一新守を主機とあせり又長
官の越佐新守をし貫きつけたるの法則を聞
きたりとの評も有り兎も角彼等が青年俱樂部
部を設立したるが如き北越學館を利用せんとす
るが如き將來の勢力を決して侮るべきにあらば加
之するに彼等の結合なる唯だ北越一州にあらずして
東北地方にあり現に人を四方に馳せ十五州北有

志強説し此程現に東北の貧乏會を南港小田原大
に大同団結の力を議せるか如き是れ或は將來には
多少の助力を以て生ずる事あり

社中の大勢を以て人を証して政治に加入せしむるの
傾向あるに他黨人の実況は如何し着實派は人
縁のうまい今日に於て他日の計をたすは將來意
想外の不覚を取らざるや蓋し必然あり

第八 上陳の如き次第あるに於て殖産協會も起り育
一日の會合も起りたせし此二會を以て將來充分政
治上社会上に充分の運動を爲し得べしと思は
るべきを理由と略すの如し

(甲)政治上に限らば一社會主義は一地方を動かすに

程此事業を經營するには必らず多數の助力に
依頼せざるを得ず然るに殖産協會員及び政友會員
(大目同盟の政友を指す)を以てするも僅かに八拾名に過ぎず其の
八拾名は皆上流の人々なるを以て僅かに是を以ては
到底將來有力な運動を爲す能はざるを痛覺したるに
(乙)然らば先づ殖産協會員を以ては莫方は未だ
是れ甚だ難し何んとなせば世間の此會を觀る
所より自ら財産家の結合と此思想は甚だ故に財産
に富まざるもの多くは直ちに政治上に手を下
さんとするものは加へを辭するの傾きあり
(丙)又政友會の殖産協會に比しては自ら易き
ところなきとも又公然同會の目的を奉ずるして多少の

働きをおし得べくを求めんと是をば是を又た甚
た難し執心に決方を遊説するとも云ふ位の人
多あり以上は得る能はざるべし何人とも是をば之れ強
と政社に如き観可きばあり

要するに殖産協会政友会は如何に其会多を増着
するとも到底北城政治社会に多数を制する程の人
を得ざる難しと云はざる可らば但し両会共又旗
幟を樹て一軍動する場合には少数と雖も自然局外者
を自身方に引入るるも果得べきも扱て今日公然旗幟
を樹ることを得る也と云ふに未だ中こよを氣運めば
至らばと信す其理由云略たぬ

(甲) 今日各政党とも衰頹萎靡を極め居るが如

政党らしく一軍動するものは先づ以て得策にあ
らぬ況や就中改進黨の如きは今日僅かに残喘を
保つに過ぎざるの状ありて到底如何公然旗幟を樹
るしまの大同團結派の好敵となすの声氣を得る
能はざるは必然なり

(乙) 現に東京に於ては改進黨中其有識者は党勢
の不振を慷慨一憂甚きに明治俱樂部を起して
改進黨の勢力を鼓舞振作せんとする此實際を見
ても到底公然政社の名を以て議會に入るの不振動
あるべしを憂像はるに呈すべし

(丙) 若し假りに公然旗幟を立すと云ふも別に働ら
くべき道なきの事なきを奈何せん是を以て不得策

ある所以なり

(丁)加之種この支障ありて結果多數の同盟者を
得るに不便なり例へば法律上の制限私の文際上
の支障等なきなり況してやその運動上亦隨て
支障障害多きに於てをや

(戊)又公然活動を建つる事、急進派、其は
事、を欲せざるも亦未と改進主義を執らざる
中三のくを取り入るゝの不便あり何れとせば(丑)拓
しめはさる地方有志者中あは此輩のく、多數
を占むるも今(寅)かに主義を執して政社、加せし
むる中、また困難あるの實況あるは、あり

最早政治上に運動、あるを躊躇、するも、今日
に於て却て斯る支障の、方面に構は、あるものあり
と、さる以上、(寅)憾、あるも、亦、中、から、運動、ある
の、準備、を、一と、而る、上、の、る、に、せ、ざる、べ、から、ん、是、は、
正、ま、の、概、ある、とも、大、く、(寅)業、を、お、さ、し、に、申、り、て、此
位、の、事、も、耐、え、せ、ざる、べ、から、ん、他、は、大、運動、を、
な、す、の、準備、と、い、何、を、や、と、い、ふ、に、一、の、社、交、上、の、俱、楽、部
を、設、置、さ、る、る、と、い、ふ、事、も、是、を、設、置、さ、る、の、理
由、と、必、要、を、略、叙、さ、る、は、た、の、如、し

- (一)申、さ、る、も、亦、く、政府、法律、上、の、干、渉、を、免、れ、
さ、る、事、も、數、を、得、る、の、利、益、あり
- (二)今、た、く、智、程、度、の、低、ら、ま、に、未、だ、(寅)か、に、政、社、を
組織、さ、る、れ、る、事、も、亦、ある、を、覚、ゆる、べ、し、且、り、く、社

文上の俱樂部として漸次政黨政社をたすなり
を益せざるの益あり是を懐も先づ肥料を施
して然る後ち種挿苗せざるの順序を踏む
ものなり（先づ肥料を施さば直ちに下種
挿苗の業に就くも宜しく先づ此肥料を
を見ざるを得んや

(三) 政事上の運動に直接の助けをあたはせしむるに
同様に交際上より直に實際の働きをなし得べ
きの益あり而して其責め却て俱樂部全体に
及ぼさざるが故に外部の支援を仰ぐるも便あり

(四) 及対政派の一人をして新たに是迄を
係れ地方に一振振を逞みせしむるを防くの便あり

(五) 仮令他党同主義の一人若くは多少の間諜の混入
多きを保し一難しと多しとも其常態に極めて
少敷きなり且實際に俱樂部として政治を公然
論議せしむる政社へ間諜の入りきたるには是れは却
て機密の漏泄を防ぐの便あり

(六) 将来に於て独り政治上の事業に止まらん社会
上種の事業を無きせざるにせしむるに如くに其
れ集まるるを僅くせざるの如き多数を省き且既に
各種の人士を集めしむるに平素所望の事業
業上此政治をあたはしむるに便益なるべし

(七) 将来國を建設するの日に一區區中直に直
接携て来るや用らんとせば其望するものも何れなく又自ら

中らんと欲せざるも通中たる人を乞く申より奉
けんと欲せざるものも有る。し何れも今日の
如く人の難をくにおはるる家死するは自ら
多数の投票を得て擧げらるるも出来ぬ又た通中
の人物と乞ふるも出来ずこれ又倶楽部の利益なり
ハ)多数のひと一体となり一團結を形するは唯たに
政治上社交に利益ありのみならず自家の交
渉上も甚だ利益あり例へば一政治家の
没収を蒙りたりと乞ふるも其の如く難を乞はる
よし之れが不服を訴ふるも餘り利目を感せず
是れも既に一体を乞はるは此の如く其の味方と
あるべきと其方の必死を乞はるは其の味方と

國王を幸はるる子を擧げ給ふ如し一又東洋員を幸は
自然に御曲を乞はるる人を畏服するの實力を有せし
ども廣く社を乞はるるに實際に於て餘り其の力を
有せざるも是れは官に有志者の壓伏を乞はるる
ものは皆孤三北徒なるを以てあり

概然らば社交上の俱樂部の如く様々組織にある
べき也諸ふはるるも其の如く其の力を有せざるも
一) 公多きは名望家、資産家、技術家、学識代
言人、實業家、等して世に立ちて働きあるもの
を包括せざるも其の如く其の力を有せざるも
二) 衛生家、教育家、等して其の力を有せざるも
立派なる青年有るは士(実学ある者)擧固なる士(も加入

世にむする其等ハ社会上實徳治り者たるを
よき

(三) 本会の基礎を鞏固あるをむする為め
多く名望家資産家を誘へして本会の賛同者
且支持者たるをむする

(四) 会費を分ちて特にお金多及通帯会費の二
種とあり特にお金多は於て中央部の隆勢を
一切負担するものとあり通帯は会費の支部に
属し其支部限り経費の負担に任せるものと
する

(五) 中央部支部の交通を頻頻と一先元を既
週一移めて將大勸を怠らば支部の隆始講義
談話研究会を設けて人心をして供する

- (六) 費用の減るべくを以て入るを減らす
一 特にお金多一々三四の要也一他の不
足有志者の義捐着附を仰ぎ以て之を補充
し各地支部の如きは各地の便宜取宜を任か
せ敢て一定の負担部を定め純然と専ら所
か多くて得る所のよりしめんを期す
- (七) 特にお金多の道産協会及び政友会の重立ち
たるもの及び将来運籌上切あるべし凡そ
を先づ定めし
- (八) 特にお金多定まる以上は各地に誘導すを
勉む

定めて其最善の施設を存せしむべし
(九)支部を設くる處(子)地方大略表の如し
北海道部

三田市 葛塚 水原 中條

福井岡

中蒲原部 龜田 沼垂 五泉 新津

村松 十須戸 白根

以上學術研究所所在地

西蒲原部

吉岡

吉岡部

長岡 栢尾

刈羽部

之 柏崎 鳴野

之 興板

南蒲原部 寺泊

之 中條

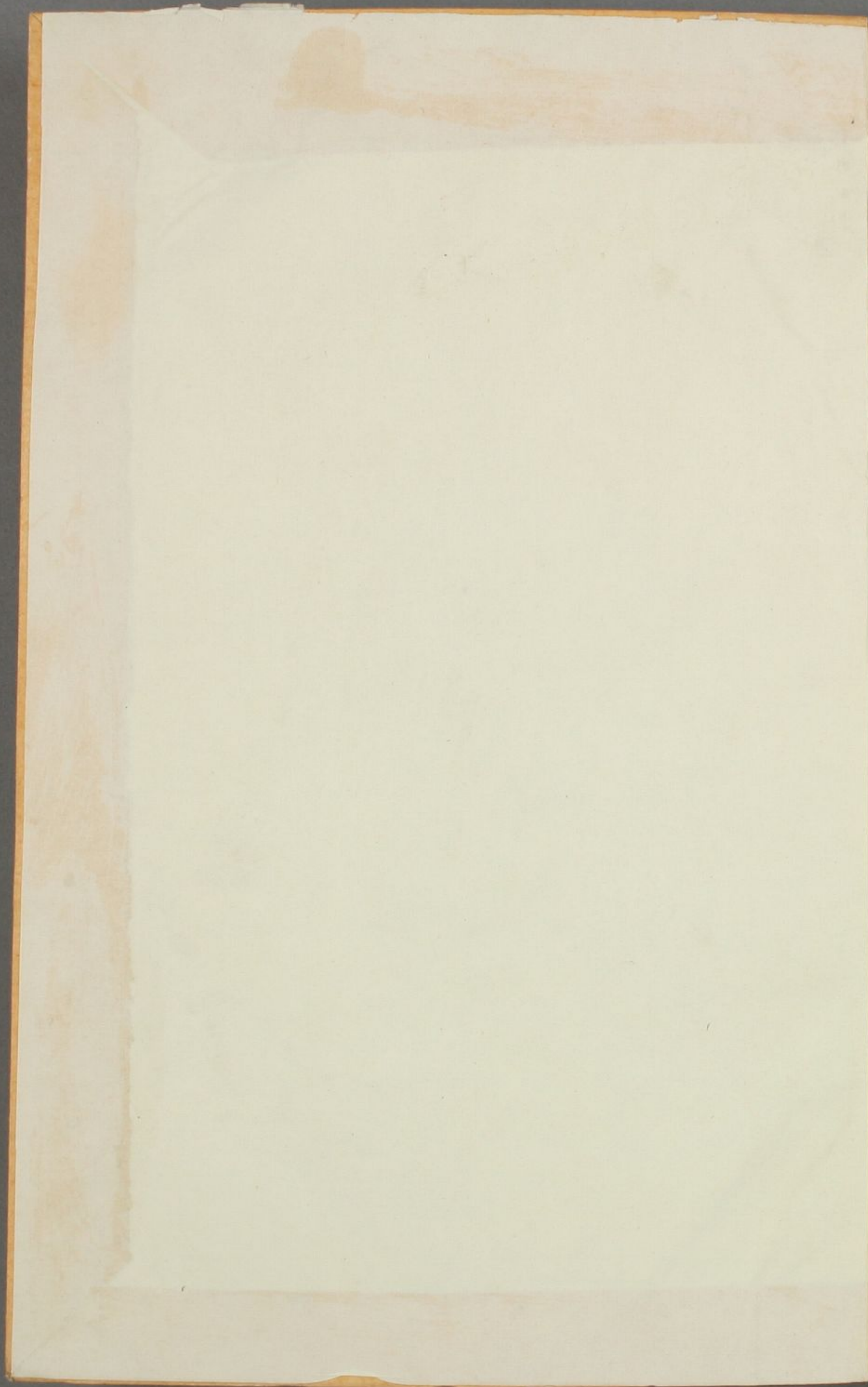
中蒲原部

小千谷

三日町

山形部

関



圖書

